

ふじぎくら



やまなし男と女とのフォーラム 表彰 (6月9日)



やまなし女性の知恵委員会 (7月22日)

目次

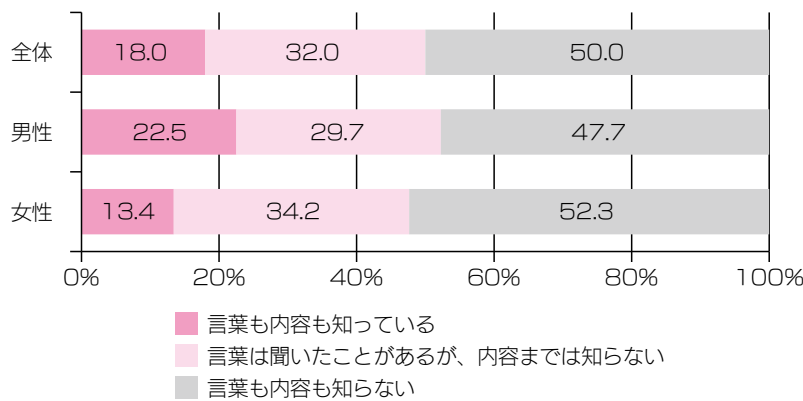
- 特集 『ワーク・ライフ・バランス』……………2
- 我が社のワーク・ライフ・バランス……………4
- チャレンジインタビュー……………5
- 地域における男女共同参画実践活動支援事業……………6
- やまなし男と女とのフォーラム……………7
- 県からのお知らせ……………8



『ワーク・ライフ・バランス』

ワーク・ライフ・バランスを知っていますか?

ワーク・ライフ・バランスの言葉の認知度



言葉も内容も知っている人は、全体の約2割で、女性に比べると男性の方がやや多いことが分かります。

『ワーク・ライフ・バランス』という言葉は何で知ったかについては、男性も女性も新聞・テレビが最も多くなっています。

会社からの情報提供で知った人は、女性が3.5%に対して男性が15.6%と男女差が見られる結果となっています。

東日本大震災後の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関する調査報告書(H25.3 内閣府)

ワーク・ライフ・バランスを考えよう!

『ワーク・ライフ・バランス』のことをこんなふうに考えたことはありませんか?

『ワーク・ライフ・バランス』は女性のためのもの?



『ワーク・ライフ・バランス』は残業しないで早く帰ること?

ワーク・ライフ・バランスとは・・・

「仕事と生活の調和」のことで、仕事、家庭、地域、プライベートなどについて自分の希望するバランスがとれる状態のことです。

理想とするバランスは、人によってそれぞれですし、個々のライフステージに応じて変化することも考えられます。自分自身の状況に合ったバランスを見つけてみましょう。

「子どもと過ごす時間を増やしたい」、「もっと趣味に没頭する時間がほしい」と考えている人にとって、ワーク・ライフ・バランスがキーワードになるかもしれません。

仕事

育児

介護

趣味



レジャー

地域

家族

学び

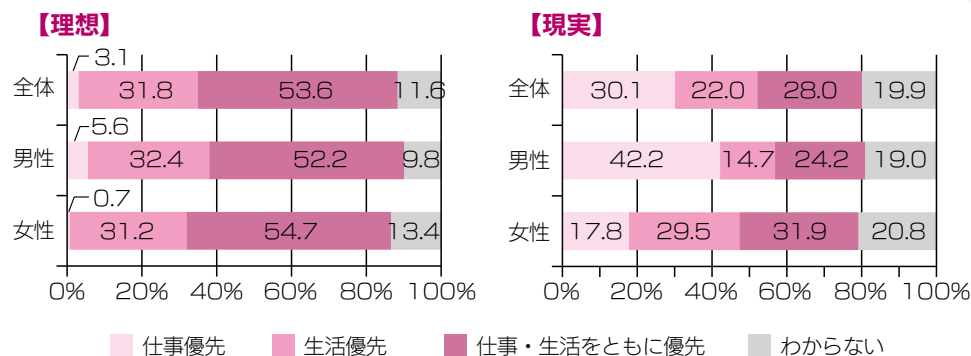
ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて…

ワーク・ライフ・バランスが実現すると、子どもと過ごす時間が増えたり、地域活動や趣味に没頭する時間ができることで、毎日の生活の満足度をアップさせ、生活にメリハリがつけます。

さらに、仕事に対するモチベーションも向上するといった好循環を生み出します。

仕事が忙しくて「ワーク・ライフ・バランス」には取り組めないという方は、理想と現実とは違うとあきらめずに、身近なデキルことを見つけることから始めてみませんか!?

仕事と生活のバランスの理想と現実



東日本大震災後の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関する調査報告書(H25.3 内閣府)

「仕事優先」を理想としている人は全体の3.1%とわずかですが、現実には約10倍の人が「仕事優先」となっています。

理想のバランスに近づくため、まずは一歩ずつデキルことを見つけてみましょう!

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けてデキルこと

【家庭】

- ・ 家族に合った家事分担の提案
- ・ 働き方、生活スタイルの見直し など

【職場】

- ・ 頑張る日と早く帰る日を決める
- ・ 上司、同僚と連携して業務を見直す など



「企業における男女共同参画セミナー」を開催しました!

「社員一人ひとりがイキイキと活躍できる職場づくりには ～ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ～」

6月25日(火)、「企業における男女共同参画推進セミナー」を開催しました。このセミナーは、企業の経営者や人事労務担当者などを対象に開催し、働く場における男女共同参画の理解を深め、その実現に取り組んでいただくことを目的に開催しているものです。

当日は、講師に渥美 由喜先生をお招きし、講演をいただきました。

講演では、最近の政治・経済の動向を踏まえ、ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスの経営効果や、女性活躍の推進とその課題、対応策などについてお話いただき、充実した研修会となりました。

渥美 由喜氏

国内でも有数の少子化対策、ワーク・ライフ・バランスの専門家として、内閣府の委員も務める。国内外のワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ先進企業800社を訪問ヒアリングし、3,000社の財務データを分析してきた。現在は企業のコンサルタント、アドバイザーとしても活躍中。



我が社のワーク・ライフ・バランス Vol.4

貢川整形外科病院 (甲府市)

ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業を紹介します!

企業概要



所在地	〒400-0066 山梨県甲府市新田町10-26		
TEL	055-228-6381	FAX	055-228-6550
社員数	135名 (男性37名:女性98名)		
資本金	-	年商	-
事業内容	●病院 (整形外科・麻酔科・リハビリテーション科)		
その他	当院は、脊椎外科・人工関節外科に専門特化し、脊椎疾患・関節疾患に対する手術治療・及びリハビリテーションを行う専門病院です。 【手術実績】 平成24年1月から12月総手術件数 780件 (脊椎手術451件・人工関節手術217件) http://www.kugawa.seikeigeka.com		

● ワーク・ライフ・バランスに取り組む経緯

当院では、開設当初より託児所を併設し、生活スタイルに合わせたさまざまな勤務形態を導入し、育児中のお母さんたちが安心して仕事ができる環境を整えてきました。そんな折、山梨県看護協会のワーク・ライフ・バランス推進事業をきっかけに、ぜひ当院の特徴を生かし職員が仕事と生活を両立し、やりがいのある魅力ある職場づくりができるように取組を始めました。

● 我が社の取組内容・考え方

まず、取り組んだのは以前から行っていた子育て支援に加え、業務改善や手当の見直し、職員の増員、病院の増改築など、職場環境を整えました。

現在、「私達は、現在、出来得る最高の治療を目指し、患者さんと共に善良でチーム医療にあたります。」という病院理念をもとに働く仲間の幸せ、患者さんの痛みのない健康な生活の提供、次世代の医療者の育成を経営目的とし、次のことに取り組んでいます。

1. 病院理念の共有;共通の価値観で仕事をする
2. 職員満足度の向上;信頼関係のある人間関係の構築
3. 患者満足度の向上;接客マナーの向上
4. 職務遂行能力の向上;研修参加などの自己啓発
5. 地域医療との連携充実;地域医療との連携充実

また、福利厚生では、レクリエーションなど春に東京ディズニーランド、冬に志賀高原でのスキー旅行など、職員同士のコミュニケーションを深め、家族サービスを行うことにより、仕事へのモチベーションを高めています。



● ワーク・ライフ・バランスに取り組んだ成果など

職員が増加するとともに、平成24年度の看護職員の離職率は0%と職員が定着するようになりました。また、看護師のみならず、女性職員は、結婚、出産後退職することなく、育児休暇を取得後、託児所に子供を預けながら働き続けています。

職員ひとりひとりが、当院で働くことに誇りを持ち、やりがいのある魅力ある職場に近づいてきたと思われま

チャレンジインタビュー

Vol.53

【働く】女性醸造家としての挑戦！ ～甲州ワインへの思いを胸に～

みさわ あやな
三澤 彩奈さん 中央葡萄酒株式会社 醸造家(ワインメーカー) (甲州市)



■ 醸造家としてのチャレンジ

ワインには興味はすごくありましたし、この街が好きでしたので、いずれはワインの道にと思っていました。もともとワイン造りに漠然とした憧れはあったのですが、私が小さい時は女性が蔵に入るといったことがあまりなく、「醸造に携わる女性」のイメージが湧かなかったこともあり、当時はまさか自分が醸造家になるとは思ってもいませんでした。

ただ、祖父も父も醸造家なので、父が一生懸命ワイン造りをして街が活性化するところを見ていたので、そういう姿を格好良いと子どもながらに思っていたのは覚えています。

具体的に醸造家を目指そうと思ったのは、フランスに留学をしてからです。24歳の時に留学をしてワインの勉強を始めたのですが、その時にワインを売ったり、ソムリエとしてレストランで働くよりは、ワイン造りに携わりたいと思いました。留学中は勉強しかない毎日、とにかく必死に勉強をしました。

フランス、南アフリカと留学を終え、帰国をしてからも毎年3ヶ月程海外へ行き、ワイン醸造の勉強を続けています。これまで訪れた国の中で、技術的に一番勉強になったのはオーストラリアですが、自分にとって特別な国として印象に残っているのはチリです。チリには2010年の大地震の後に行ったのですが、現地の人達は、災害にも負けない陽気な人が多く、その明るさに元気をもらいました。

また、チリでは、ワイン造りは雇用の創出など地域貢献性の姿があること、人件費が安ければ安いワインができますが、日本のワインは安さばかり追求してしまうとダメになるのではないかなどいろいろと考えさせられました。チリは醸造家として私をすごく成長させてくれた国でしたね。

■ 醸造家としてのこだわり ～甲州への想い～



2008年からは中央葡萄酒株式会社で栽培と醸造の責任者をしていますが、日本のワインに足りないのは栽培だと思います。栽培については自社農園があり、自社農園だからこそ造り手の意見をぶどうに反映することができます。ワインの場合はぶどうが大事なので、自社農園で一から管理したものを自分自身で醸造と連想していけるのは醸造家にとって、とても魅力だと思います。

「甲州」についてもぶどう栽培から行っています。甲州は醸造家として適切な言い方ではないかもしれませんが、純粋さもあり、とてもピュアなワインです。飲んでいくうちにスルスルと飲めてしまうワインで、一杯しか飲めないワインでは絶対にありません。ぶどうの歴史も1000年程度と長いことが特徴です。1000年も歴史があるぶどうというのは、なかなかありません。また、和食との相性が良いのも甲州ワインの魅力です。

甲州は、イギリスをはじめ8カ国に輸出をしていますが、醸造家としては、甲州のことを説明してくれる人がいるような適所で飲まれてほしいという思いがあります。マーケットを海外に開くのはとても大変なことですが、今回山梨が日本のワイン産地としては初めて地理的表示として指定されたことで、ワインに産地として「山梨」という表示をすることができるようになりました。今後はコツコツ地道に市場を切り開き、定着させ、甲州という品種、ワイン産地としての山梨が世界中の人々にインプットしていただけるようになると嬉しいですね。

■ 今後の挑戦 ～理想のワインを目指して～

ワインマーケティングはとても女性が強く、活躍している方もたくさんいますが、ワインメイキングの分野では、国内外を通じてまだ女性の醸造家は少ないのが現状です。

確かにワイン造りは、体力的な面などで男性の方が向いている点もありますが、ワイン造りには芸術的な面も大事だと思いますので、そういう部分では女性の感性を活かせるのではないかと考えています。

私自身も好きなワイン、造りたいワインのスタイルというものがあるので、自分自身の感性を活かして、最終的には自分しか造れないもの、人の心に残るようなものを作っていきたいという気持ちはあります。こうした造り手としての目標に加えて、甲州を自分がどこまで広められるかにも挑戦していきたいと思っています。

三澤さんのこれまで

中央葡萄酒株式会社の三澤茂計4代目オーナーの長女として産まれる。

2005年: 単身で渡仏、ボルドー大学ワイン醸造学部DUADを卒業。

2007年: 南アフリカ・ステレンボッシュ大学大学院へ留学。

同年: 中央葡萄酒株式会社のワイン造りに携わり始める。

現在: 中央葡萄酒株式会社の醸造責任者として、ぶどう栽培から責任ある立場でワイン醸造に従事している。

●新しい女性としての生き方へのチャレンジ●

女性は自分の望む生き方と周囲から求められる生き方が違うことがあるなど、同年代の女性たちが苦労や辛さを感じています。

私自身も辛いときはありますが、頑張っている彼女たちに今年もワインを飲んでもらいたいという思いで頑張る部分もあります。

将来的には、私も苦しんでいる女性のために何かができるかと思っています。そういうところにも、今後賛同してくれる女性がいると嬉しいですね。

Vol.52以前のインタビューは、やまなし女性の応援サイト
<http://www.pref.yamanashi.jp/challenge/interviewlist.php>をご覧ください。

地域における男女共同参画実践活動支援事業



委嘱式

6月21日、男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて「地域男女共同参画推進員」を17名の方に委嘱しました。

今年度委嘱されました地域男女共同参画推進員の皆様には、昨年度同様「防災」をテーマに地域の男女共同参画を推進し、地域課題の解決に向けた活動を行っていただきます。

また、委嘱式当日には、東京未来大学の石阪督規先生に「地域を変える男女共同参画の試みー地域が変われば社会は変わる！ー」と題して講演をいただくとともに、昨年度地域男女共同参画推進員として委嘱（任期は平成26年3月31日まで）され、現在南アルプス市藤田地区で実践活動を行っている長澤さん、水上さんにも事例発表として活動状況をお話いただきました。

事例発表



平成25年度 やまなし女性の知恵委員会

女性の知恵と感性を活かす「やまなし女性の知恵委員会」は、少子化対策を検討し、検討結果を提案書にまとめ、7月22日に県の少子化対策プロジェクトチームに手渡し、意見交換を行いました。

提案書について

産み育てやすい全国に誇れる 山梨県を目指して



※提案書は、県のHPIにも掲載していますので、ぜひご覧ください！

<http://www.pref.yamanashi.jp/kenmin-skt/23455104705.html>

男女共同参画推進月間キャンペーン

6月1日（土）にラザウォーク甲斐双葉様にご協力をいただき、甲斐市とともにキャンペーンを行いました。

キャンペーンの中では、啓発冊子等の配布のほか、イベントスペースで次のような催しも行いました。

- ① 紙芝居 「ジェンダーってなあに？」（グループWING（ウィング））
- ② 絵本の読み聞かせ、手遊び
「もったいないばあさん」、「だるまさんの」、「たまごにいちゃん」（人形劇サークル「うふう」）
- ③ 寸劇 「さくらっ子 オレオレ詐欺の巻」（劇団「さくらっ子」）



平成25年度 やまなし^{ひと}男と女^{ひと}とのフォーラム

3.11から学ぶ「その時、大切な人を守るには」 ～今日からできる災害への備え～

6月9日(日)山梨県立文学館において、やまなし^{ひと}男と女^{ひと}とのフォーラムを開催しました。

男女共同参画推進事業者等表彰

県では、男女共同参画を推進する活動に積極的に取り組んでいる個人や事業者等を表彰しています。今年度は、次の方々が表彰されました。

県民表彰

長年にわたり、各地域において男女共同参画の推進や条例の制定及び計画（プラン）の策定に携わるなど、その活動が他の模範となる4名の方に今年度は表彰を行いました。

有 泉 妙 子 (市川三郷町)
磯 部 幸 廣 (昭和町)
河 内 晶 さ 子 (山中湖村)
高 野 比 登 美 (笛吹市)

団体等表彰

DV、ジェンダー、子育て、イクメンなどをテーマとした講演会、啓発事業を通して県内に広く男女共同参画を推進するため、長年地域や教育の場において積極的に活動を行っており、取組が他の模範となる1団体に今年度は表彰を行いました。

やまなし女と男ネットワーク

事業者表彰

医療法人小宮山会 貢川整形外科病院

- 女性の管理職登用を積極的に行うとともに、資格取得への助成を行うなど女性の能力開発の促進
- 事業所内託児所の開設、希望託児や一時託児、2時間単位の有給休暇制度などの実施

社会保険 山梨病院

- 女性の管理職登用を積極的に行うとともに、資格取得への助成を行うなど女性の能力開発の促進
- 産前産後休暇、育児休業制度は法を上回る整備、活用を図るとともに、保育料の助成も実施

国立大学法人 山梨大学

- 女性の管理職登用を積極的に行うとともに、産前産後休暇、育児休業制度の法を上回る整備、活用
- 大学内に託児施設を開設し、延長保育、病後児保育、夜間保育に対応するとともに、女性研究者への研究実験補助を行うサポーター制度等の実施

大和リース株式会社 山梨営業所

- 育児休業制度、短時間勤務制度は法を上回る整備を行うとともに、配偶者出産休暇制度の活用
- 月2回のノー残業デーは、実施率も高い
- 使用残の年次有給休暇の積立制度により、5日以上の看護休暇等への使用が可能

基調講演 『東日本大震災、女の視点男の視点 ～大切な人と生き抜くために～』

【講師】

- 秦 好子 さん (日本女性消防職員ネットワーク (JFFW) 代表)

〈講演概要〉

東日本大震災への被災地支援の経験を踏まえ、避難所で課題となった「女性の視点」、気づかない性の違いについてお話をいただき、男でも女でもない「誰もが」の視点が災害時には必要だということ、そして災害に備えて大切な人と生き抜くために私たちが今日からできることについてお話をいただきました。



県からのお知らせ

これからの
事業のご案内



暑い夏が終わり、これからはお出かけしやすい季節です。
県及び男女共同参画推進センターの事業にもぜひ足を運んでみてください。

- ★ **ぴゅあ富士フェスティバル2013 「ささえあい 笑顔輝く 参画社会」**
平成25年10月19日（土）、20日（日） 男女共同参画推進センターぴゅあ富士にて
講演、活動発表、ミニコンサート、バザー・フリーマーケット、展示、抹茶席、もちつきなど
- ★ **ぴゅあ峡南フェスティバル2013 「創ろうよ幸せ地域 女と男」**
平成25年10月26日（土） 男女共同参画推進センターぴゅあ峡南にて
講演、活動発表、ふれあいひろば、体験ひろば、子ども体験コーナー、展示など
- ★ **配偶者等からの暴力（DV）についての講演会**
平成25年11月11日（月） 13：30～ 山梨県立文学館にて講演会を行います。
 - 講演：DVと子どもの虐待～私たちにできること～
 - 講師：森田 ゆり さん（エンパワメントセンター主宰）
- ★ **DV防止啓発企画展示「暴力はダメ」の開催**
平成25年11月12日から25日 男女共同参画推進センターぴゅあ総合にて
配偶者からの暴力（DV）について知っていただくため、資料やパネルを展示します。

子育て応援・
男女いきいき宣言企業
を募集しています！

● 男女共同参画、子育てを積極的に推進している・推進しようとする企業の皆さんの応募をお待ちしています！

詳しくは
こちら

▶ <http://www.pref.yamanashi.jp/kenmin-skt/30054557987.html>



『やまなし女性の応援サイト』
御活用ください！

● やまなし女性の応援サイトでは、チャレンジする女性に役立つ講座やイベントの情報、支援機関の紹介、現在チャレンジしている方のインタビュー記事を掲載し、チャレンジするあなたを応援します！

詳しくは
こちら

▶ <http://www.pref.yamanashi.jp/challenge/index.php>

編集後記



今年も残すところ3ヶ月をきりました。1年間を振り返ってみるとあっという間に時間が過ぎていくように感じます。

今回は、ワーク・ライフ・バランスについて特集を組んでみました。仕事と家庭の両立に向け、県でもさまざまな取組を行っています。自分らしい働き方、生き方について、もう一度考えてみませんか。

編集・発行

山梨県県民生活・男女参画課

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 Tel. 055-223-1358 E-mail : kenmin-skt@pref.yamanashi.lg.jp

山梨県立男女共同参画推進センター

● ぴゅあ総合：〒400-0862 甲府市朝気1-2-2 Tel. 055-235-4171

● ぴゅあ峡南：〒409-2305 南巨摩郡南部町内船9353-2 Tel. 0556-64-4777

● ぴゅあ富士：〒402-0052 都留市中央3-9-3 Tel. 0554-45-1666